

ひとり親家庭等自立促進計画

アンケート調査結果  
～ 速 報 ～

平成31年2月15日(金)

柏市 こども部 こども福祉課

# 1 調査概要

調査対象	母子世帯	871世帯／2,577世帯(※)
	父子世帯	129世帯／131世帯(※)
	合計	1,000世帯／2,708世帯
調査方法	対象世帯は、母子世帯を無作為抽出、父子世帯を全数抽出 対象世帯に児童扶養手当現況届用紙にあわせて事前送付 現況届とあわせて窓口回収(8月)	
回答数	母子世帯	610世帯／871世帯(70.0%)
	父子世帯	76世帯／129世帯(58.9%)
	合計	686世帯／1,000世帯(68.6%)

(※)住民票が柏市にないなどの世帯を除く

## 2 背景

項目	平成26年度	平成30年度
常住人口	409,093人※H27.3	425,019人※H30.12
うち18歳未満人口	65,017人※H26.4	65,772人※H30.4
離婚率	0.181%	未(※)
被保護人員数(保護率)	4,218人(1.031%)	4,626人(1.088%)

(※)直近値(平成29年度)・・・0.175%

項目		平成26年度	平成30年度
児童扶養手当	認定世帯数	2,720世帯	2,801世帯
	受給世帯数	2,329世帯(85.6%)	2,281世帯(81.4%)
	支給停止世帯数	391世帯(14.4%)	520世帯(18.6%)
	受給児童数	3,681人(5.6%)	3,487人(5.3%)

### 3 児童生徒数等

項 目		平成26年度	平成30年度
児童生徒数	小学生	21,415人	21,435人
	中学生	10,023人	9,692人
就学援助	小学生	1,810人	未(※1)
	中学生	1,192人	未(※1)
児童扶養手当	未就学児	711人	561人
	小学生	1,254人	1,237人
	中学生	842人	763人
	高校生世代	874人	926人
生活保護	未就学児	114人	未(※2)
	小学生	189人	未(※2)
	中学生	112人	未(※2)
	高校生世代	128人	未(※2)

(※1)直近値(平成29年度)・・・小学生1,839人, 中学生1,152人

(※2)直近値(平成29年度)・・・未就学99人, 小177人, 中99人, 高校126人

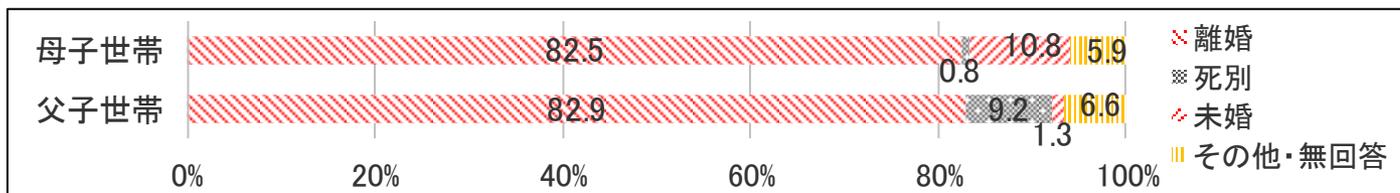
## 4 回答者の状況

項 目		回答世帯数
有効票数 709票	母子世帯	610世帯(86.0%)
	父子世帯	76世帯(10.7%)
	不明	23世帯(3.2%)
児童扶養手当 受給世帯	全部支給	191世帯(26.9%)
	一部支給	253世帯(35.7%)
	全部停止	105世帯(14.8%)
	わからない	19世帯(2.7%)
生活保護受給世帯		28世帯(3.94%)
子ども	未就学児がいる世帯	141世帯
	小学生がいる世帯	305世帯
	中学生がいる世帯	200世帯
	高校生がいる世帯	227世帯

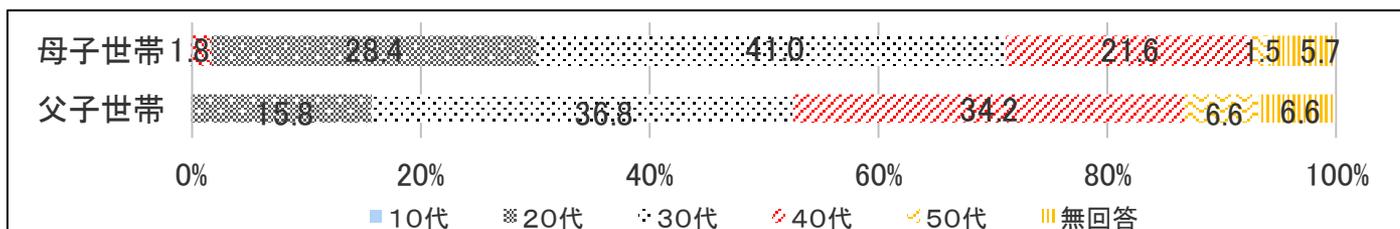
# 5 世帯・世帯員

26年度と比べ、離婚の母親は7.1ポイント減少し、未婚の母親は3.1ポイント増加。30代でひとり親になった方が最多で、平均年齢は母親33.6歳、父親37.9歳。全体の6割以上が、未就学児を抱えてひとり親になっている。自身の両親との同居は減少傾向。母子世帯では、約6割が母親と子どもだけの世帯と考えられ、家族等の支援が得られにくい環境が見受けられる。

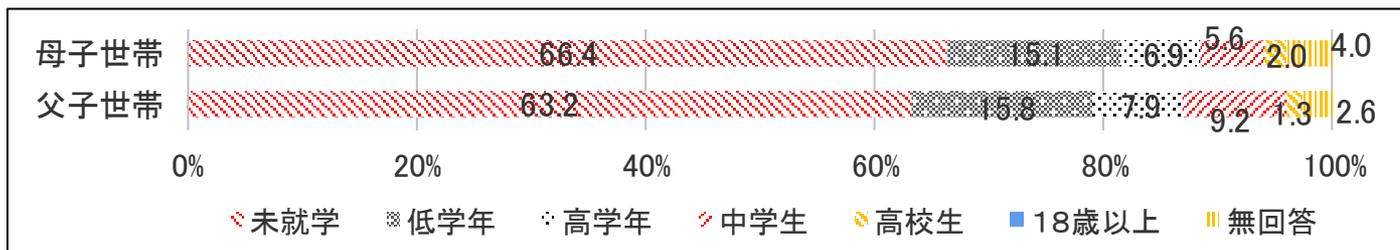
【ひとり親になった理由】



【ひとり親になった年齢】



【ひとり親になった時の末子の年齢】



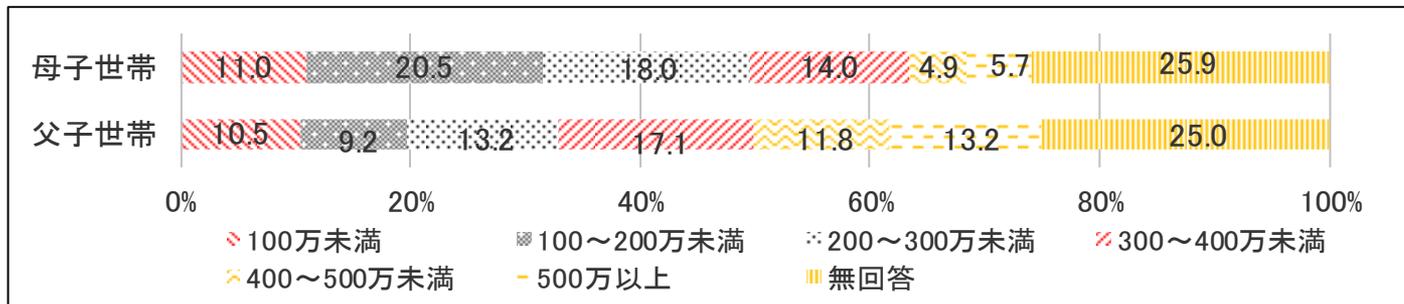
【子ども以外の同居人】

	父	母	兄弟姉妹
平成30年	17.5%	27.2%	7.5%
平成26年	18.7%	30.4%	6.8%
平成20年	21.7%	33.3%	6.4%

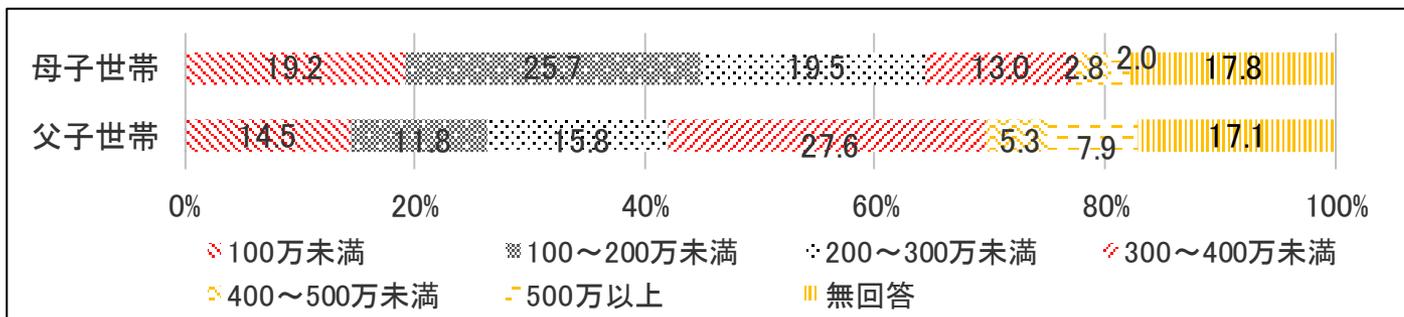
# 6 生活実態(収入)

母子世帯の6割以上が収入が300万円未満であるが、26年度から10.7ポイント減少し、改善傾向にある。預貯金は50万円以下が約半数を占め、苦しい生活や将来への不安な状況が伺える。

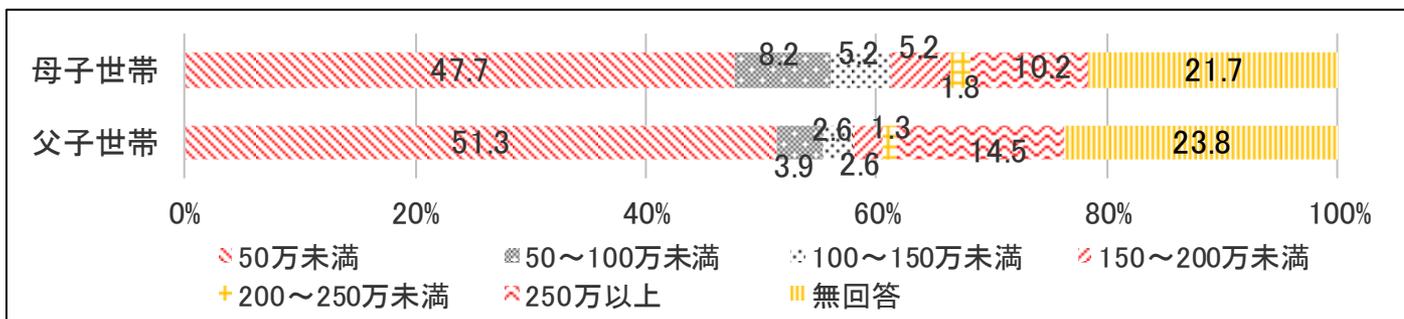
【世帯収入】



【ひとり親の収入】



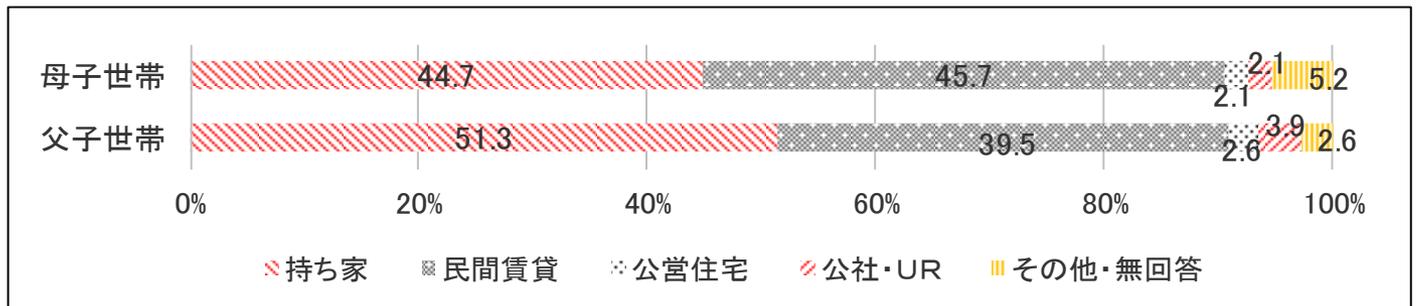
【ひとり親の預貯金】



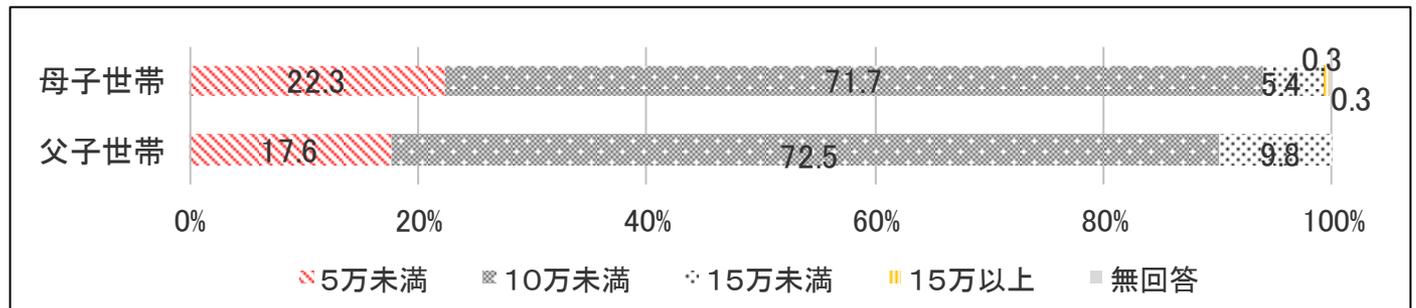
# 7 生活実態(住宅等)

約半数が持ち家に居住。うち、3分の1が回答者名義の家  
 月々の支払額は、5~10万円程度が7割以上を占める。  
 暮らし向きが「苦しい」「やや苦しい」は約6割で、26年調査時から10ポイント以上改善

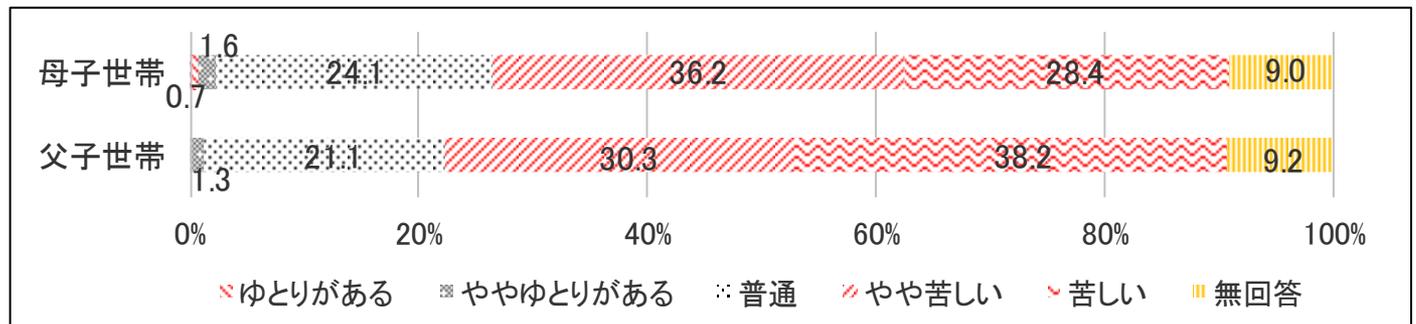
【住宅の種類】



【家賃・ローンの月額】



【暮らし向き】



## 8 生活実態(物品や経験)

スマートフォン所持率は親子ともに高い一方で、新聞購読率は低い。  
家族での旅行やレジャー、習い事など、子ども達の経験や教育機会が少ない状況。

### (1) 所持率

%	親の スマホ	子どもの スマホ (小・中学)	パソコン	朝聞 (朝刊)	子ども机 (小・中学)	子どもの 本 (小・中学)
母子世帯	92.1	59.8	37.4	12.0	50.0	34.4
父子世帯	86.8	73.3	55.3	19.7	63.3	40.0

### (2) 経験率(小・中学生のいる世帯)

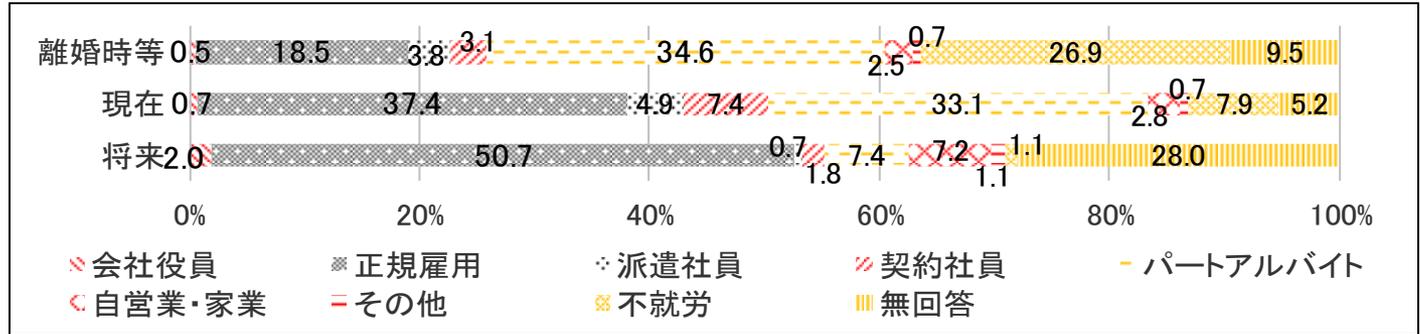
%	家族旅行	レジャー・スポ ーツ観戦	誕生日の お祝い	家族で 外食	毎月の 小遣い	習い事
母子世帯	23.2	32.7	86.0	59.9	38.6	35.7
父子世帯	21.4	35.7	73.8	52.4	47.6	31.0



# 9 就労状況(2)

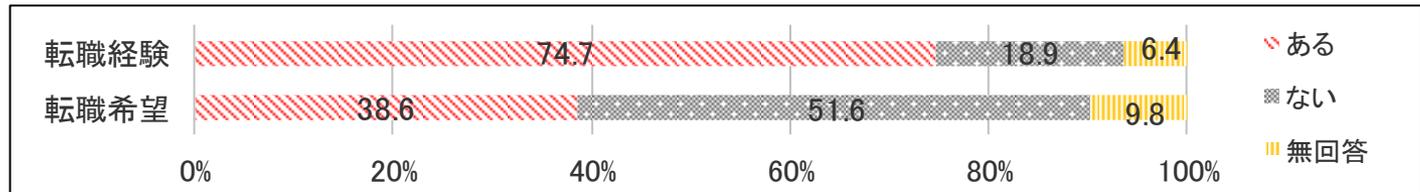
ひとり親の雇用形態は26年度からほぼ変化がない。正規雇用は4割弱，非正規雇用は4割強。約4割が転職を希望し，収入を最重視し，次いで仕事内容や勤務時間帯を重視

## 【母子世帯の雇用形態】



## 【母子世帯の転職】

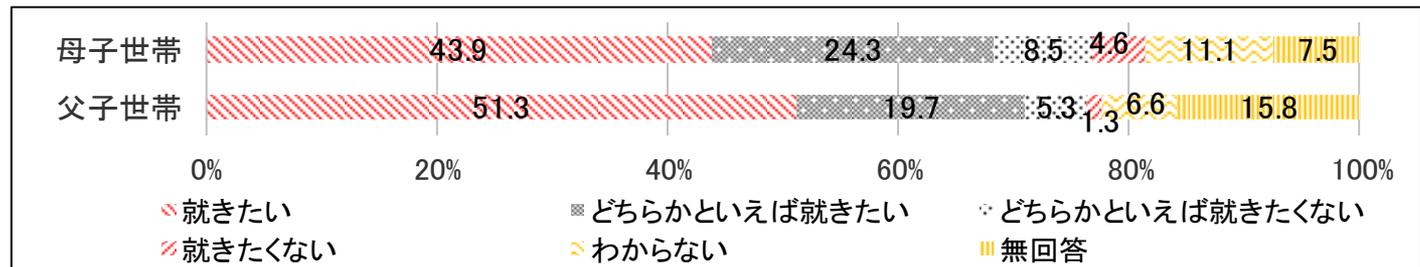
※就労者のみ



## 【仕事選びのおもな基準】

%	収入	仕事内容	勤務の時間帯	休暇取得	勤務場所	正規雇用	職場環境	労働時間
母子世帯	64.4	27.7	24.8	17.2	14.6	12.0	10.2	8.2
父子世帯	71.1	31.6	21.1	9.2	6.6	10.5	7.9	15.8

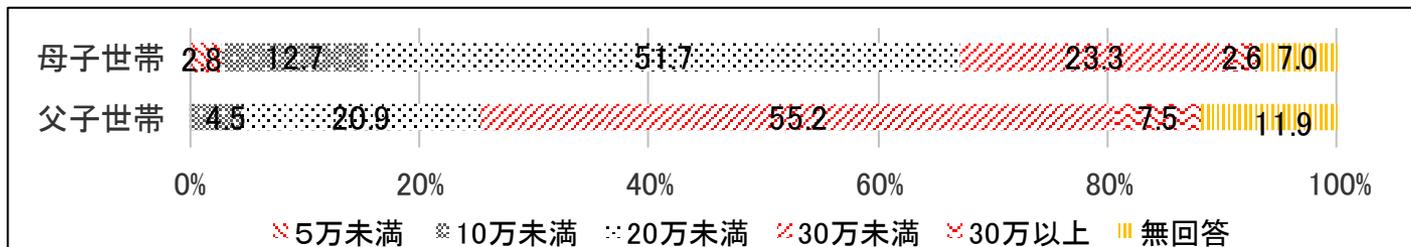
## 【正規雇用での就労】



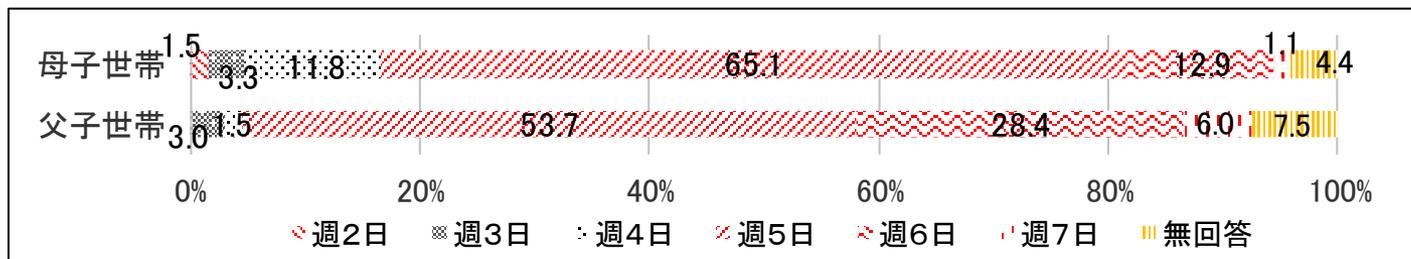
# 9 就労状況(3)

母子世帯では、7割弱が月給20万円未満、1割以上が週6日以上勤務  
 父子家庭では、3割以上が週6日以上勤務し、4割以上が1日9時間以上労働  
 ひとり親の4割以上が、ほぼ毎週の土日に出勤

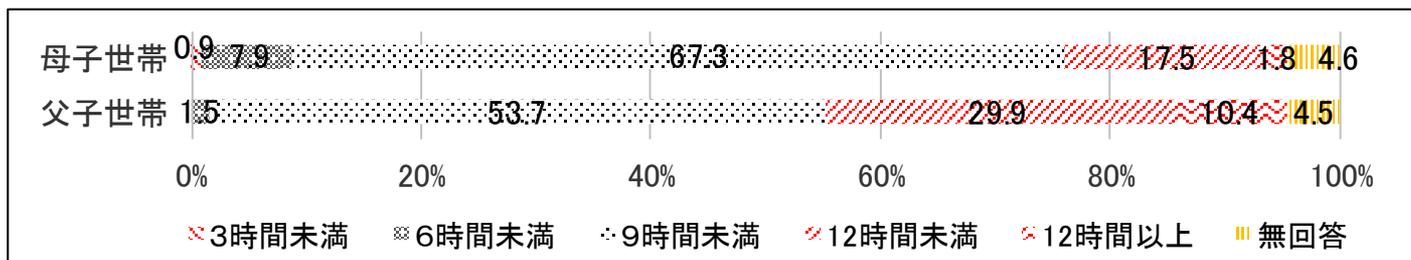
【月給】



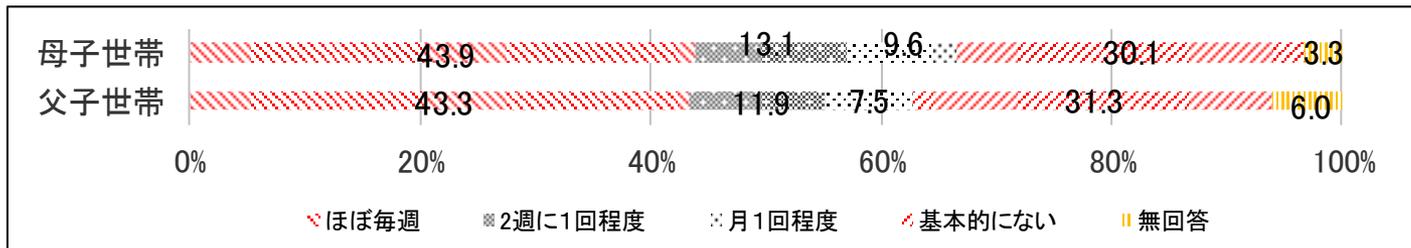
【1週間の労働日数】



【1日の労働時間】



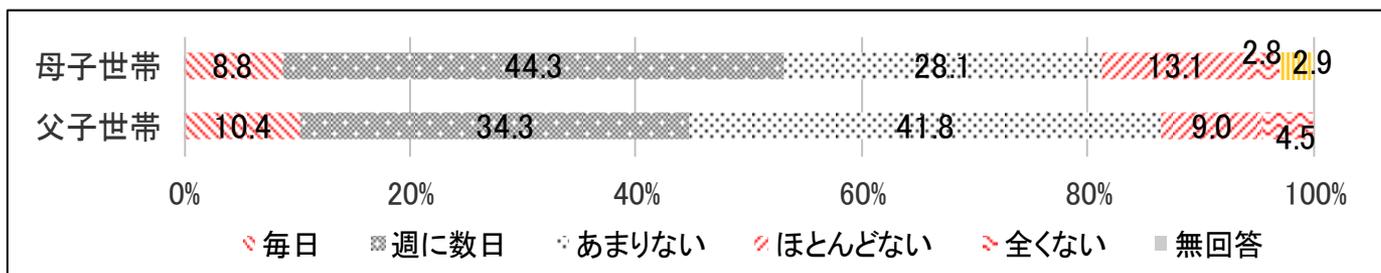
【土日出勤】



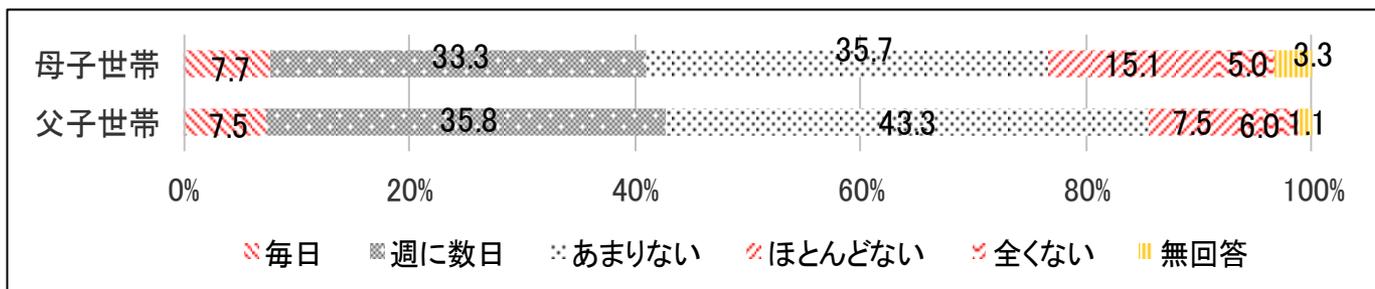
# 10 就労と子育て

ひとり親の約半数が週に数日以上、仕事の疲れから家事や育児ができない状況。  
また、4割以上が長時間勤務によって家事や育児を行う時間がない状況。

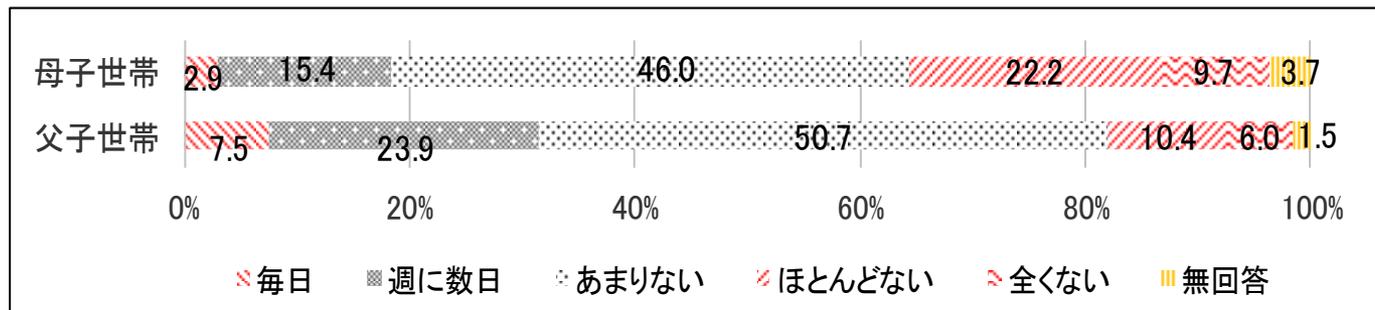
【仕事に疲れて  
家事や育児が  
できない】



【勤務時間が長く  
て家事や育児が  
できない】



【家事や育児に  
追われて仕事に  
支障をきたす】



# 11 子どもの生活状況

ひとり親世帯では、毎日登校する児童は7割程度であり、遅刻や欠席が目立つ。  
 また、1割以上の世帯で子どもの不登校を経験  
 ひとり親であるため、子どもだけで家に居ることが多い状況が見受けられる。

## 【登校状況】

※小中高生の  
 のいる世帯

%	毎日登校	遅刻 しがち	休みがち	不登校の 経験有	退学の 経験有	無回答
母子世帯	72.3	7.0	8.8	14.0	3.5	13.7
父子世帯	62.8	7.0	4.7	14.0	4.7	27.9

## 【放課後の 過ごし方】

※小学生以上

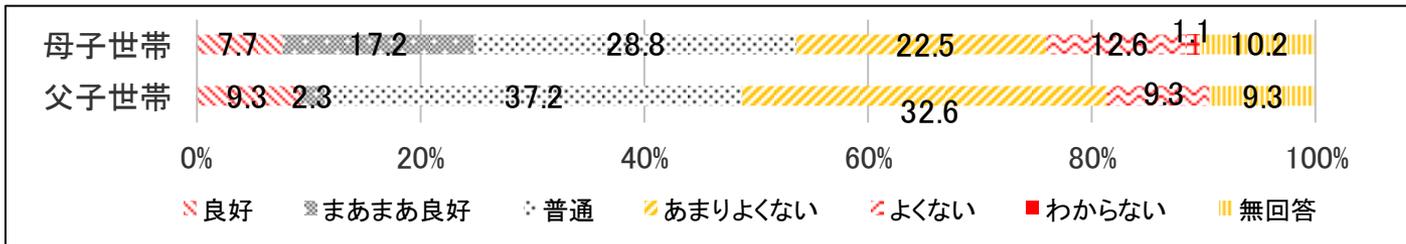
%	子供だけ 家にいる	友達と 遊ぶ	学校のク ラブ活動	こども ルーム	家族等と 家にいる	塾や 習い事
母子世帯	31.0	26.1	23.2	19.8	17.3	14.3
父子世帯	31.3	29.7	23.4	9.4	14.1	15.6

親族に 預ける	アル バイト	ファミサポ 利用	児童センター ・近隣センター	その他	わから ない	無回答
8.8	7.1	0.2	0.4	5.5	0.4	10.0
6.3	7.8	3.1	0	1.6	1.6	14.1

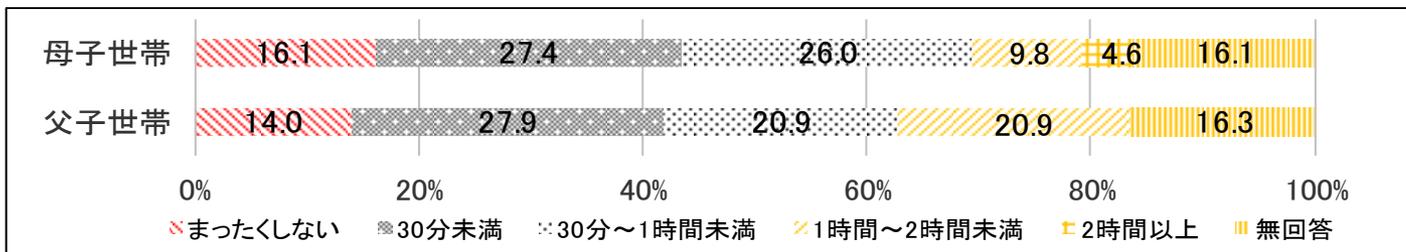
# 12 子どもの学習状況

ひとり親の3割以上が子どもの成績が普通に満たないと認識。1日の学習時間が30分未満と答えるひとり親が約4割。子どもの学習場所は自宅との回答が約6割いるが、家族の共有スペースでの学習や、学習場所が決まっていないとの回答が7割以上と多い。

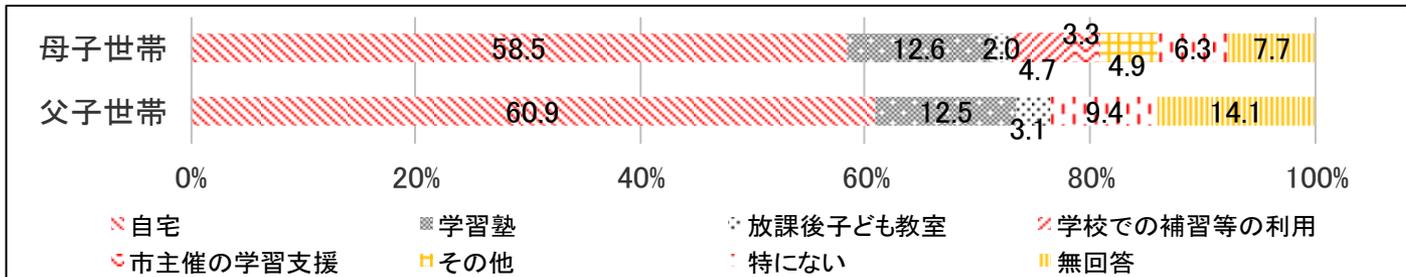
## 【学校の成績】 ※小学生以上



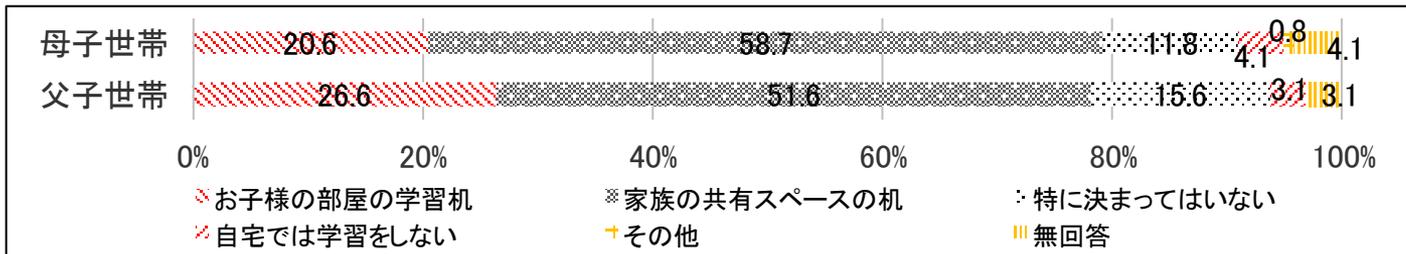
## 【1日の学習時間】 ※小学生以上



## 【主な学習場所】 ※小学生以上



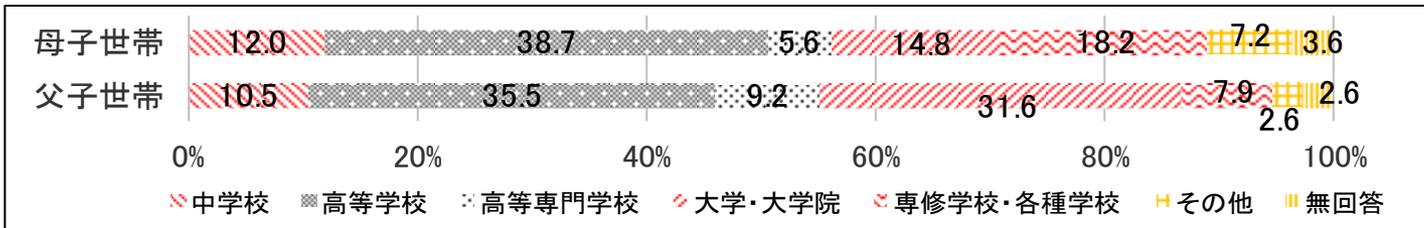
## 【家庭での 学習場所】



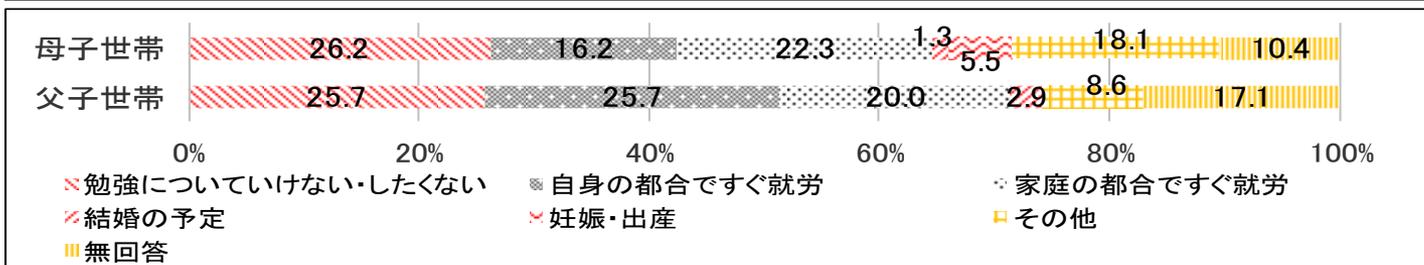
# 13 保護者の学歴・学習への関心

最終学歴が高卒以下のひとり親が約5割存在し、4人に1人が勉強の遅れ等を理由とする。学習塾の利用希望は小5～中3で多いものの、教育費や学費への不安も大きい。

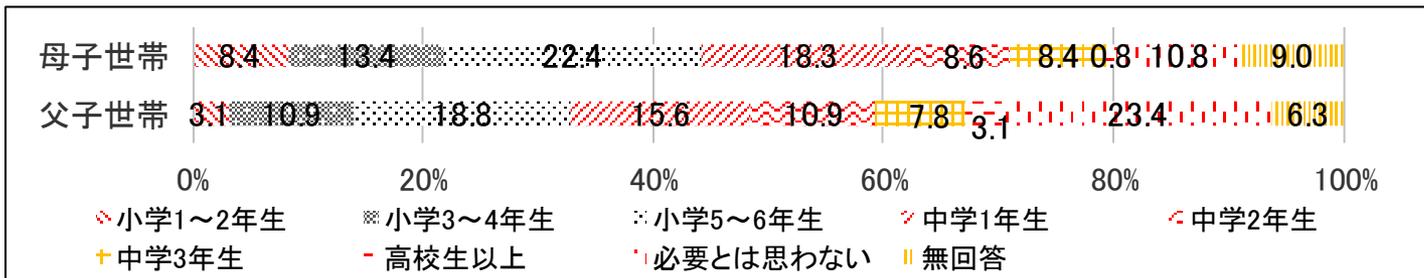
【保護者の最終学歴】



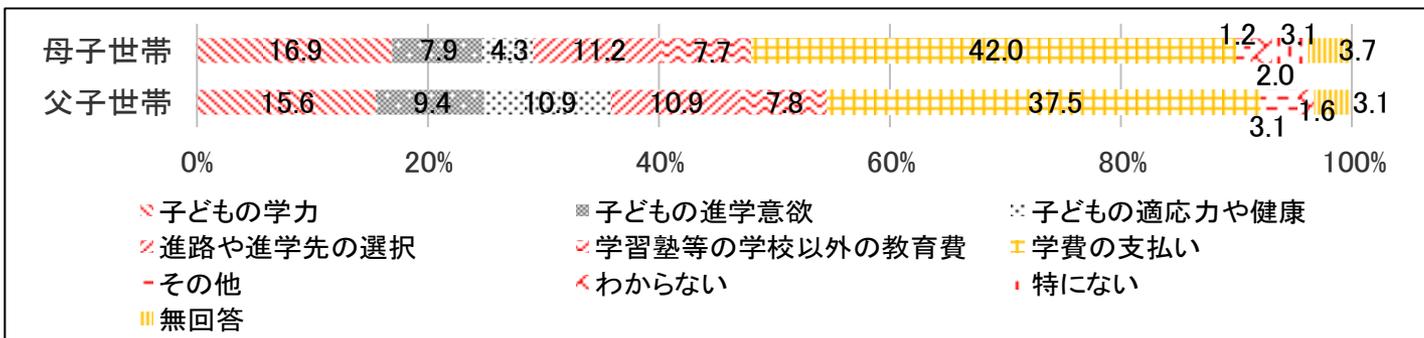
【中高卒の理由】



【子の学習塾の利用希望】



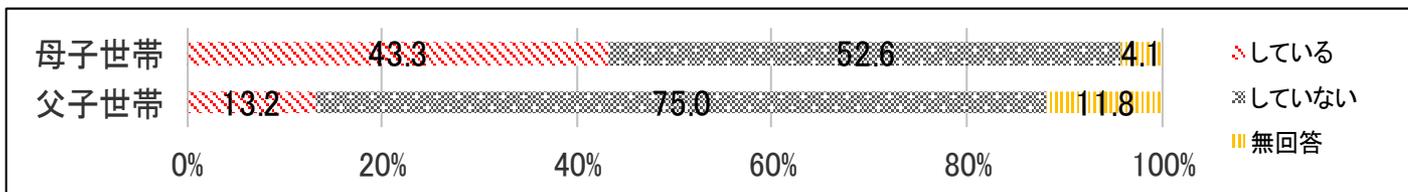
【子の進学への心配事】



# 14 養育費の状況

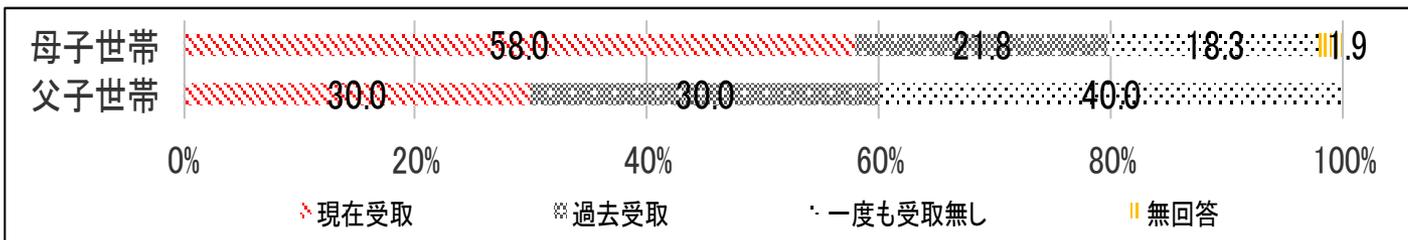
取り決めている方は約4割で、26年度から10.9ポイント悪化。取り決めた方のうち、現在も受け取っている方は約6割。養育費請求の経験がある方は1割弱程度であり、相手との関わりや交渉を避け、請求しない傾向が伺える。

【取り決め状況】

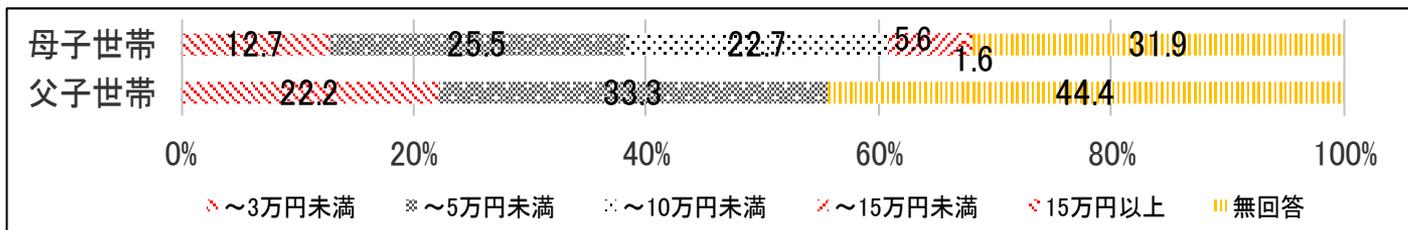


【受け取り状況】

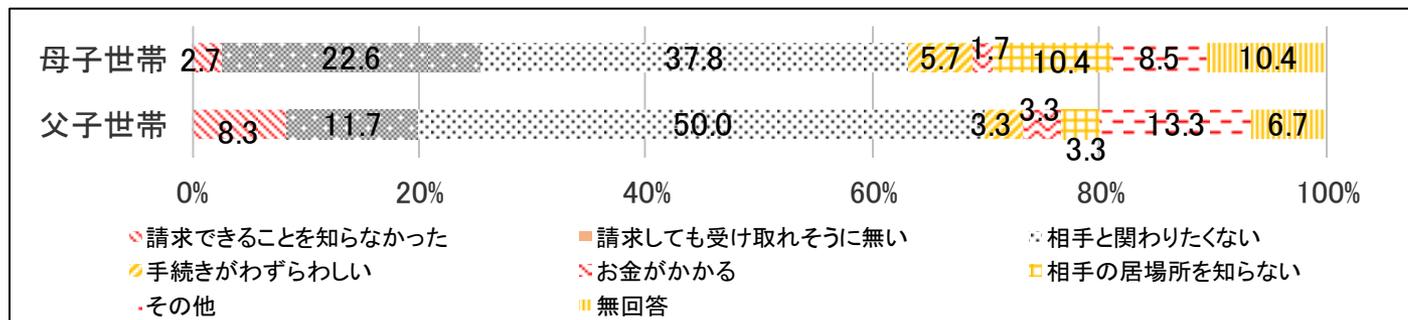
※取り決めた方のみ



【受け取り月額】



【請求しない理由】



# 15 抱える悩み(保護者自身について)

金銭的な悩みは、ひとり親になった当時から変わらず抱えている。ひとり親になった当時に比べ、自身や親族等の健康に悩みを抱えるようになるひとり親が増加。

母子世帯			%	父子世帯		
ひとり親になったとき	現在	将来		ひとり親になったとき	現在	将来
83.9	81.6	64.6	お金・家計	59.2	68.4	61.8
59.2	39.5	28.2	仕事	44.7	40.8	27.6
19.0	12.8	13.0	住居	10.5	3.9	7.9
9.3	↗25.9	↗29.8	自身の健康	11.8	↗27.6	↗28.9
44.3	35.7	13.3	子育て	57.9	38.2	15.8
5.1	8.9	1.8	家事	28.9	14.5	6.6
1.5	4.4	5.2	結婚・異性	2.6	9.2	6.6
3.0	↗9.8	↗31.8	老後	1.3	↗5.3	↗25.0
12.5	4.1	2.1	ひとり親への偏見	6.6	3.9	3.9
1.8	↗11.1	↗22.3	親族の健康・介護	2.6	↗7.9	↗25.0
2.8	3.1	1.8	特にない	3.9	5.3	5.3
7.7	7.1	17.2	その他・無回答	5.3	6.6	10.5

# 16 抱える悩み(子どもについて)

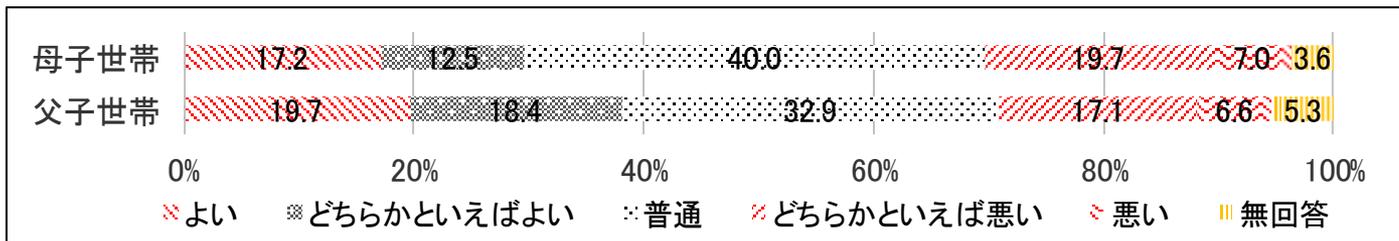
子どもの成長に応じて、育て方や発育への悩みは解消していく一方で、進学や教育費、その先の就職や結婚への悩みが増加

母子世帯			%	父子世帯		
ひとり親になったとき	現在	将来		ひとり親になったとき	現在	将来
50.3	38.7	12.3	しつけ・育て方	56.6	26.3	19.7
34.4	19.7	15.7	健康・発育	44.7	22.4	18.4
29.3	↗56.1	37.9	勉強・進学	36.8	↗55.3	35.5
44.8	↗53.0	46.9	学費・教育費	32.9	↗47.4	39.5
17.4	12.5	3.4	食事・栄養	25.0	15.8	10.5
12.3	10.8	12.1	いじめ・非行	13.2	13.2	13.2
12.3	20.5	18.2	交友関係	10.5	19.7	19.7
2.6	6.2	↗32.8	就職	2.6	3.9	↗31.6
0.3	0.8	11.3	結婚	0	2.6	19.7
1.5	1.0	1.1	その他	3.9	2.6	1.3
6.7	5.2	3.9	特にない	6.6	10.5	6.6
9.3	7.7	17.2	無回答	5.3	6.6	7.9

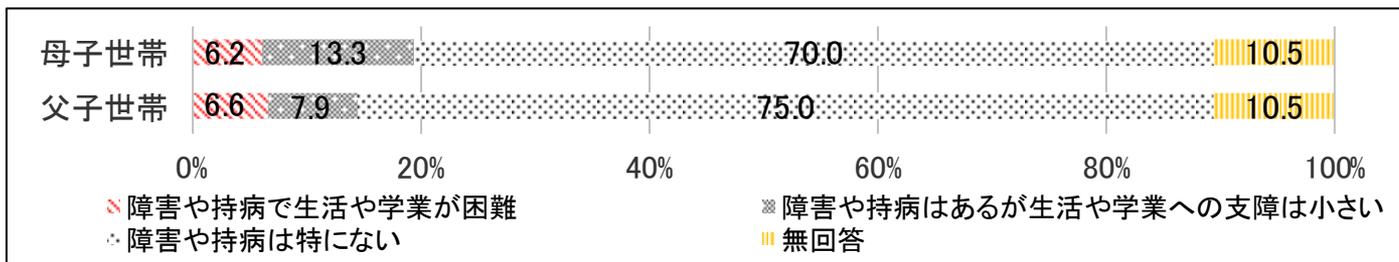
# 17 抱える悩み(支援情報入手)

2~3割のひとり親が自身の健康状態が良くないと回答。子どもの健康については、2割弱が障害や持病を抱えている状況。支援情報は、スマホやパソコンの他に市役所窓口も入手元となっており、情報を得るためのSNSの活用意向は高い。

## 【保護者の健康状態】



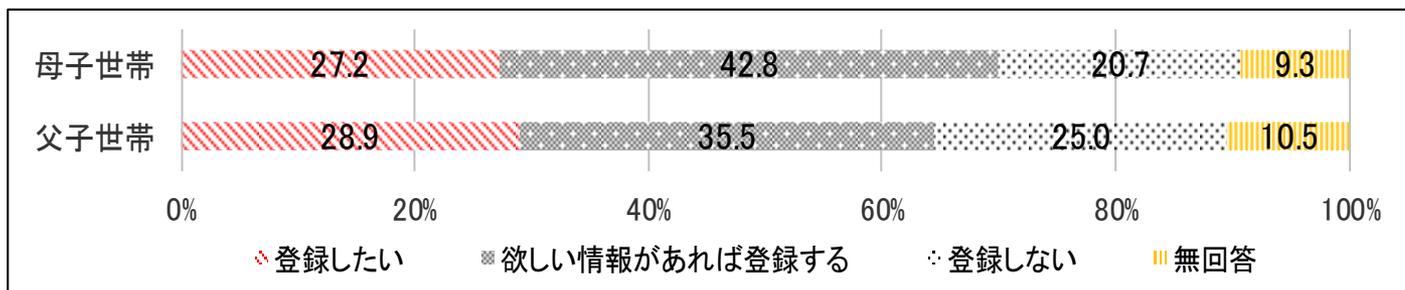
## 【子どもの障害や持病】



## 【支援情報の入手方法】

%	スマホ	市役所(窓口)	パソコン	市役所(電話)	友達	近隣センター・児童センター
母子世帯	44.1	27.5	17.4	11.8	8.4	4.9
父子世帯	32.9	35.5	28.9	15.8	2.6	7.9

## 【SNSの登録希望】



# 18 行政サービスの認知

多くのひとり親が利用する制度や事業は認知度も高く、利用者や対象者が少ないものは認知度も傾向にあるものの、就労の支援など頻繁に情報発信が必要

	利用あり	知っているが利用なし	知らないが利用したい	知らない	無回答
ひとり親家庭等医療費等助成	41.9	13.7	1.0	5.1	38.4
ファミリー・サポート・センター	4.8	38.6	1.1	16.5	38.9
JR定期券割引	7.3	23.0	7.9	23.1	38.6
自立支援教育訓練給付金	3.5	35.3	3.2	19.5	38.5
高等職業訓練促進給付金	1.8	30.5	3.5	24.8	39.4
高等職業訓練促進貸付金	0.8	30.0	2.8	27.1	39.2
母子父子寡婦福祉資金	1.6	28.9	4.9	25.7	38.9
学習支援事業	9.4	15.9	7.5	27.9	39.2
養育費無料法律相談	4.8	22.4	2.1	31.6	39.1
母子・父子自立支援員(相談)	6.5	20.3	1.1	32.7	39.4
介護職員初任者・実務者研修	2.0	22.8	2.3	33.6	39.4
高卒認定試験合格支援給付金	0	18.2	2.8	39.9	39.1

# 19 考察

項目	概要
世帯・世帯員	8割以上が離婚 離婚当時、保護者は母親が20～30代、父親は30～40代で約7割 約8割が、小学生低学年以下の子どもを抱える 年々、両親との同居は減少。 <u>日常的な支援を得にくい環境にある。</u>
生活実態	母子世帯の母親の収入は、30万円未満が約6割、貯金も約5割が50万円未満 暮らし向きは約6割が「苦しい」「やや苦しい」と回答も、収入とともに26年調査時より改善 [新]親のスマホは必需品となる一方、新聞購読は1～2割。小中学生の子どもにおけるスマホ所持率が高い。家族での旅行やレジャーなどの、 <u>自宅以外での経験が不足している</u>
就労状況	9割が就労しつつも、 <u>正規雇用は母親の4割弱のため</u> 、7割が収入に不安 母親の4割が転職を経験・希望するも、 <u>正規雇用を強く望む割合は現状と変わらない</u> 母親の約7割が月給20万円未満。約3割は週6日以上就労。 <u>半数近くが週末も就労</u> 約4～5割のひとり親が、就労により育児や家事が週に数日以上できていないと認識
子どもの生活・学習状況	ひとり親の <u>1割以上が子どもの不登校を経験</u> ひとり親の約3割が子どもの成績が平均に満たないと認識。 <u>学習習慣に課題</u> 約5割のひとり親が自身も学業不振や、本人や家庭の都合によって学歴は高卒以下 約4割のひとり親が子どもの進学について最も大きな不安は学費と認識
養育費	養育費の取り決め状況は26年調査時よりも悪化も、取り決めた方における受け取りの状況は改善 養育費の請求について、ほとんどのひとり親が認識はあるものの、 <u>相手方との関わりや交渉を避け、行っていない。</u>
抱える悩み	金銭的な悩みは約8割、自身と家族の健康や介護は約3割のひとり親が抱える。 <u>約2割のひとり親が自身の健康不良を感じている。</u>

## 20 計画策定スケジュール案

日 程 案		項 目
平成31年	5月下旬	第3期計画策定に向けた諮問 第2期計画の評価・検証
	7月下旬	第3期計画に向けた総論
	10月中旬	// 各論
	11月下旬	第3期計画の素案提示
平成31年 翌年	12月～1月	パブリックコメント
翌年	2月上旬	計画案提示・答申案